

リテラシーの地平―読み書き能力の教育哲学―
目次

まえがき……………1

第一章 識字と「精神の文字化」——イヴァン・イリイチの「レイ・リテラシー」の問題圏——…13

一. 精神の文字化 13

二. オラリテイ（口頭文化）とリテラシー（文字文化） 19

三. イヴァン・イリイチが提起するレイ・リテラシーの概念 23

四. レイ・リテラシーの心性史 27

ホメロスからプラトンへ／〈テキスト〉の誕生／文字化された精神／レイ・リテラシーから
コンピュータ・リテラシーへ

五. レイ・リテラシーと言葉のコモンズ 43

第二章 「機能的リテラシー」の成立と展開……………49

一. 「機能的リテラシー」とは何か 49

二. 端緒 52

三. ユネスコにおける識字活動 55

四. ウィリアム・グレイの「機能的リテラシー」の概念 59

五. 「機能的リテラシー」と経済開発 63

六. 経済中心主義への反省 69

第三章 機能的リテラシーの二つのモデル……………76

一. 機能的リテラシーの官製モデル 77

 アメリカの非識字者問題／機能的リテラシーの二つの次元／機能的リテラシーの目標項目／
 APLの機能的リテラシーの特徴

二. 官製モデルの批判的考察 83

 無力化／飼い馴らし／非人間化

三. 機能的リテラシーのオールタナティヴ・モデル 87

 機能的リテラシーと“human being”／機能的リテラシーと主体的生活能力／オールタナティ
 ヴ・モデルの内容と方法

第四章 パウロ・フレイレの識字教育理論……………93

はじめに 93

一. フレイレの識字教育の方法 95

〈第一段階…調査〉言葉の収集／沈黙の文化／識字教科書の批判〈第二段階…生成語の確定〉
生成語の言語学的機能／生成語の実存的機能〈第三段階…識字教育の実践〉コード表示／討
論／課題提起 (problem posing)

二. フレイレの教育哲学 110

銀行型教育と課題提起型教育／知識の理論／対話／教師の指導性

第五章 文化的リテラシーと国民の記憶……………122

はじめに 122

一. E.D.ハーシュの「文化的リテラシー」論 125

背景知識／注入主義教育のすすめ／文化的リテラシーとアメリカの共通価値

二 文化的リテラシーと公民教育 133

ウィリアム・ベネットと「遺産の復権」／民主主義の公民教育

第六章 批判的リテラシーと文化的ポリティックス …………… 142

批判的リテラシーの登場／文化的リテラシーに対するイデオロギー批判／規範的知識の「歴史決定論」／認識主体と知識の意味作用／再生産論から批判的リテラシーへ／批判的リテラシーとパウロ・フレイレ／批判的リテラシーとエンパワーメント／批判的リテラシーと文化的ポリティックス

あとがき…………… 164